

解 説

附属幼稚園 5 歳児

タイトル：「研究」って何だろう？ ～5 歳児による「研究所」の遊び～

授業者：佐藤寛子・田村郁・高橋陽子・戸田実穂・青山理恵

解説タイトル：

遊びから生まれる探究とコンピテンシーの芽生え

コンピテンシー育成開発研究所

特任助教 押尾 恵吾

本報告では、附属幼稚園において 5 歳児が園庭で見つけた未知の昆虫をきっかけに、自発的に「研究所」遊びを始めた事例を紹介している。子どもたちは図鑑や顕微鏡を持ち込み、教師が用意したワイシャツを白衣代わりに着ることで雰囲気演出し、互いを「研究員」と呼び合うなど、本格的な研究所ごっこを展開した。そこでは研究ノートを作って観察記録を残したり、会議を開いて成果を共有したりと、探究的な活動が自然に生まれた。

このプロセスにおいて、子どもたちは創造的思考力（本物がどういったものかを知らずとも自らのイメージを重ねて研究所を創出する力）、協働性（お互いが役割を分担し助け合いながら場を運営する力）、他者理解（仲間の研究を認め合う態度）、自己制御（研究所内での自主的ルール作りと遵守）といったコンピテンシーを実際に発揮していた。中心となった子どもは、これまで友達との関わりが消極的だったが、研究所長として仲間にも認められることで自尊心を高めていったことも重要な成果である。

教師は子どもの主体性を尊重し、アトリエ空間を提供し、道具や環境を整えるといった支援を行った。子どもたちは主体的な遊びを通じて「研究」とは何かを自分なりに体験し、調べ、考え、記録し、伝える過程そのものを楽しんだ。未知の昆虫の正体は最後まで解明できなかったが、その過程で得られた探究の喜びと仲間との関わりは、コンピテンシーの基盤となるといえるだろう。